

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

- | | | |
|----|--------|-----------|
| 1. | 教育学部 | 3-1-1(教育) |
| 2. | 教育学研究科 | 3-2-1(教育) |

教育学部

- I 教育水準 3-1-2(教育)
- II 質の向上度 3-1-4(教育)

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 18 年度より教員養成課程、人間地域科学課程、芸術課程、スポーツ教育課程に再編し、各課程の地域配置も整えたことによって、教育学部の目的と内容がより鮮明になってきている。また学生定員・現員と専任教員は再編完了後の計算値に順調に近づいているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施体制・組織が全学的に整備され、学生による授業評価、学生の参加型授業の実施等の工夫が見られる。授業に対する学生の評価も6割の者が満足しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、授業科目を教養科目、専門科目、研究発展科目に分け、相互の関連を構造的に追求した教育課程の編成になっている。専門科目は、教員養成課程において教員養成コア・カリキュラムを形成するなど、各課程の目的に沿って編成されており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、全学連携科目、単位互換制度、科目等履修制度、留学生プログラム、キャリア教育・インターンシップの実施等、学生や社会からの要請に対応する試みが多彩に展開されており、優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、専門科目では少人数授業の比重を高め、講義、演習、実習、実技の授業形態が、当該科目の特質に沿って適切に組み合わせられている。また、参加型授業の展開が目指され、シラバスも良く利用されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) ・CAP の制度を導入し、授業に対する学生の意識を高めることに力を入れている。また、アカデミックアドバイザーの制度を設けて個別的な修学指導を徹底しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位取得状況（1年次で40単位以上、2年次で84～98単位）、平均通算グレード・ポイント・アベレージ(GPA)（1年次2.71～3.18、2年次2.69～2.91）の状況の他、資格取得状況、進級状況、卒業・修了状況、学位取得状況、学生が受けた様々な賞の状況が良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、在学生に対する「授業評価アンケート」結果、「教養教育に対する学生の到達度評価」、「卒業生アンケート」結果等で、満足度、獲得できた知識・技能、教養科目に対する到達度等、いずれも高水準を保っており、優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、高い就職率を維持している。中でも平成16年度から平成19年度の教員養成課程の教員就職者の割合（臨時採用を含む）が81.2%と高く、加えて教員養成課程以外の諸課程の教員就職者の割合も27.6%あるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、平成16年度から18年度の卒業生へのアンケート調査結果からみた在学時の教育プログラムに対する満足度、就職先の関係者（学校長、人事担当者）に対するアンケート調査からみた卒業生の評価がおおむね高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は8件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学研究科

- I 教育水準 3-2-2(教育)
- II 質の向上度 3-2-4(教育)

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、学校教育、教科教育、養護教育、学校臨床心理の4専攻からなり、専任教員数は大学院設置基準を満たし安定している。また、大学院生の平均定員充足率（1.12～1.27）も安定しており、教員一名当たりの担当学生数（1.55～1.84）も妥当であり相応に取り組んでいることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、ファカルティ・ディベロップメント(FD)の体制が確立しており、授業内容・方法の改善のため在学生及び修了生に対するアンケート調査の継続的实施、またシラバスの指針の作成、さらに双方向遠隔授業方法の改善等を行っている。院生の授業満足度も相応に高いなどの取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程は、学校教育に関する科目、教科教育に関する科目、教育実践研究、課題研究、専門科目、自由科目等によって編成され、シラバスもそうした教育課程の趣旨に沿ったものになるよう点検と改善が行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、単位互換制度、長期履修制度、特例による履修方法、昼夜開講制、科目等履修生制度等多様な履修制度を設けて修学の便を図っており、留学プログラムも整備・実施され、定員を上回る院生が入学しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義科目と演習科目の1対1の組み合わせ、講義形式の中に討論・実習・演習・発表等の取り入れ、問題解決型学習を徹底するなど、種々の学習指導の工夫がなされており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、特に優れた業績をあげた学生は、審査の上、当該課程に1年以上在学すれば修了できる制度を設けたり、図書館開館時間の延長、学習スペースの確保、図書館には無線LANの設備を、また学習設備の一部には学内LANの接続口を用意するなど、主体的な学習を保証するための措置がなされており、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成19年度に開講された科目に対する合格率は高く(97.1%)、平成19年度の専攻別成績の分布でも成績は良好である(70%前後がAの評価)。修了者は専修免許を取得し、臨床心理士認定資格を取得する者もおり(平成19年度で5名)、様々な分野での受賞者も少人数ながら毎年出ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成16年度以来毎年実施している修了生を対象とするアンケート調査において、教育目標「実践的な指導力の養成」に対して相応の達成状況(達成できたと考える回答者の割合が平成16年度から平成19年度にかけて42%、50%、61.1%、52.9%)を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学

業の成果は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 16 年度から平成 19 年度において、就職率は 90%前後で推移し就職志望者の 50~60%前後が教職についており（臨時採用を含む）、教育学研究科の目的を相応に反映しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、教職についた平成 16 年度から平成 18 年度修了生が勤務する学校長に対するアンケート調査で、勤務状況に関しては学校長の 83.6%が「普通」以上のレベルで評価しており、教科指導の専門的知識・実践的指導力の到達度（5段階評価でそれぞれ、4.24、3.72）などの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 3 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。